「エコ×エネ」を次世代につなぐ

電源開発

「エネルギーと環境の共生」を企業理念に掲げ、卸電力事業を国の内外で展開している電源開発（J―POWER）。

J―POWERグループでは、2007年以降、「エコ×エネ体験ツアー」を皮切りに、「エコ×エネ体験プロジェクト」を立ち上げて社会貢献活動に取り組んでいるが、その目的について、「社会が持続可能な発展を遂げていくためには、エネルギーと自然環境を相反する存在ではなく、〝つながり〟として捉え、どちらも大切にする心と技術を育てることが必要です」（藤木勇光・電源開発秘書広報部審議役）と語る。

「エコ×エネ体験ツアー水力編」は、奥只見発電所と御母衣発電所を舞台に、毎年夏休み期間中に、小学生（4～6年生）親子と大学生を対象にそれぞれ開催。主に、①発電所体験、②自然体験、そしてこれらのつながりを実験を通じて確かめる③まとめのワークショップの三つで構成している。

同社秘書広報部広報室（社会貢献担当）の南栄助氏は、「本ツアーを通じて体感したこと、思ったこと、感じたことを日常生活に持ち帰っていただくわけですが、体験するからこそ、自分は毎日の生活の中で何ができるだろうか、エネルギー環境にどう携わっていけるだろうかと考えを深めたり、行動化してもらえたりするのではないかでしょうか」と、〝体験〟の重要性を強調する。

今年2月には、水力編の延長線上で、大学生を対象とした火力編（磯子火力発電所）を開催した。

「化石燃料を使っている以上、CO_2や大気汚染物質の排出など、環境に負荷をかけざるを得ません。しかし、その軽減のためにプラント効率を上げる、大気汚染の原因となる物質を除去する装置の性能を高める等、先人たちの思いや努力の積み重ねが、世界トップレベルと言われるような最新鋭の発電所の実現につながっています。これを、次の世代にも伝えていきたいと思います」（藤木氏）。

その上で、とりわけ大学生については、今ある現実を学ぶ以上の大きな期待を寄せる。

「社会が求めるエネルギーというのは、時代によって常にその内容が変わります。ですから、こういうところは悩ましいということまで含めて、率直に平場で対話をすることを通じて、エネルギーや環境、あるいはどういう社会が望ましいかという将来像を主体的に考え、行動できる若者たちが育っていってくれたら、と願っています」（藤木氏）。

そういった思いを背景に、2009年からは、「エコ×エネ体験ツアー」のいわばスピンオフとして、それまでツアーに参加した大学生や企業のCSR担当者などを対象に、「エコ×エネ・カフェ」をスタートさせた。

「心がけていることは、『若いやつに教えてあげる』のではなく、一人一人の意見を大切に聞き合い、学び合うということです。私自身、実際にその場にいて、若手には思いもよらない着眼点があるのだなあと、びっくりすると同時に、とても嬉しく思っています。ちょっとしたきっかけがあれば、しかも他者とのコミュニケーションの中から新しい発想・アイデアというのは生まれてきますので、そういう〝プラットホーム〟があること自体、意義が深いと思っています」（小林庸一・電源開発秘書広報部広報室課長）。

「おかげ様で、『エコ×エネ体験ツアー』も水力編だけではなく火力編ができたり、カフェやワークショップができたりと、一連のメニューが揃ってきました。本プロジェクトは、本業に根ざしたコミュニケーション・対話活動であり、つながりの輪を広げながら、これを継続し、よりよい形にしていくことが、理念に対する我々の本気度を表現する一つの方策なのだと考えています」（藤木氏）と、力強く言葉を締めくくった。

◇

エコ×エネ体験プロジェクトの詳細はURL＝http://www.jpower.co.jp/ecoene/で紹介されている。

奥只見で行われた「エコ×エネ体験ツアー水力編」